

ユース審判員活動報告書

審判トレセン道北ブロック レフェリーアカデミー

実践で学び、 次の一歩へ。



副審の実技



試合後のフィードバック



試合前の整列

開催概要

日時 2026年8月2日(日)
会場 旭川実業高校
人工芝グラウンド
報告者 増田 裕之

研修概要

旭川サッカーフェスティバルの試合を活用し、主審・副審・第4の審判員を経験。試合後にはインストラクターによるフィードバックを実施し、実践を通して審判技術の向上を図りました。

参加者の声

①太田 碧飛 (旭川地区 高校3年生)

今回の実技では、角度をつけたポジショニングを意識したことで、プレーをより明確に確認できる場面が増えました。一方で、事象だけを見てしまい、プレー全体の流れや状況を把握できていなかったため、ファウルの判定に迷う場面もありました。フィードバックでは、「見ているようで見えていない」ことが判定につながっていないと指摘を受け、攻撃側競技者の寄りかかり方など接触プレーの見極めの重要性を学びました。今後はトランジションで素早く動き出し、より良いポジションからプレー全体を捉え、的確な判定につなげていきたいです。

②遠藤 寛太 (宮城県 高校2年生)

普段担当している女子高校生の試合と比べ、非常に強度の高い試合を経験し、多くの学びを得ることができました。特に、攻守の切り替えの速さやスピードの中での視野の確保、空間の使い方など、実践を通して多くの気づきを得られたことが大きな収穫でした。また、「一つでも多く吸収したい」という思いで参加し、自分に足りない部分を意識しながら取り組むことができました。北海道の審判員の積極的な姿勢にも刺激を受けたので、宮城に戻ってからも攻守の切り替えを意識しながら、今回の学びを実践に生かしていきたいです。

③藤川 恵太 (旭川地区 高校1年生)

研修では、「とにかくボールを追うこと」をテーマに実技へ取り組みました。1試合目はジョギングが多く、ボールを後追いつける場面がありましたが、その反省を踏まえ、2試合目以降は積極的にボールを追い、サイドチェンジへの対応も改善することができました。また、オープンなポジショニングで全体を見渡すことや、プレッシャーを受けていないセンターバックがボールを保持した際に前方の情報を集めることを意識してレフェリングを行いました。今回学んだことをリーグ戦などでも実践し、より良いレフェリングにつなげていきたいです。